

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770104200		
法人名	株式会社 悠遊社		
事業所名	グループホーム エーデルワイス		
所在地	香川県高松市高松町2160-1		
自己評価作成日	平成30年11月5日	評価結果市町受理日	平成31年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「寄り添い待つ介護」を理念に利用者様のペースに合わせて自己決定出来るように促し、自由で笑顔の多い毎日を過ごしていただいている。ご家族様とは利用者の状況が共有できるように毎月の一筆箋による近況報告や、来設時に積極的に係わりことで信頼関係を築けるように努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は高松市の東部幹線道路の北側、鉄筋2階建ての2階部分にある。静かな日当たりの良い環境にある2ユニットのグループホームである。管理者はじめ職員は開設以来異動が少なく、利用者の生活や介護を安定して支えてきている。「寄り添い待つ介護」の理念通りに、それぞれの方の生活の意向やペースを尊重され、各自が伸び伸びとした暮らしをしている。利用者が喜んでくれるプログラムやアイデアを大切にし、利用者や家族にも喜ばれている。
--

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	平成31年2月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に理念の唱和を実施し、理念の実践に向けて日々、努力している	食堂カウンター上の壁に理念を掲示し、毎朝のミーティングに全員で唱和されている。月1回の職員会議には理念についての話し合いをし理解を深め、実践に活かされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な係わり、交流は出来ていない。施設イベントや行事の時は自治会の青年会などの協力を得ている	季節ごとに行事を企画し実施されている。定期的に近隣の幼稚園児の慰問があり、秋まつりには施設のイベントとして、地域の青年団が獅子舞や模擬店を出すなど地域に根ざした交流がなされている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への情報発信は行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのご家族からの意見や実践している事柄について職員会で検討し、また、急を要する場合は随時報告・検討し活かせるように努力している	運営推進会議は全員の家族に参加を呼びかけ、関心を持つ家族が増している。会議で出た意見には真摯に答えるようにしている。また、職員とも随時報告や検討をしてサービスの向上に役立てられている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、運営推進会議などで実情や問題について相談したり、適宜、市役所に訪問し相談や問題解決に取り組んでいる	運営推進会議で市役所担当者と連携を深めるとともに、管理者が直接介護保険課に相談したり、アドバイスを受けて問題解決に取り組んでいる等の協力関係が構築されている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会を設置し利用者の日々の状況・状態を観察し拘束ゼロに向けて努力している。現在は、拘束している利用者はいない	2か月に一度は拘束防止員会を開催し、拘束についての理解が深められている。日々の取り組みが拘束に該当するかどうかが常に検討されており、センサー等福祉用具を利用した対応がなされている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は設内研修を行うなど虐待を理解しお互いを監視し合う事で見過ごさず報告できるような体制を確保している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の理解や、学ぶ機会は不十分であるが後見人制度を利用している利用者もいるので学ぶ機会は必要		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、及び解約時には、管理者、又は、事務長が重要事項説明書を用いて十分な説明を行い署名捺印をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において意見を伺う機会を設けている。また、管理者・職員は家族来設時には積極的に係わり常時意見を伺うように努力している	運営推進会議の場や日頃の連絡報告を密にすることを通じて、家族から信頼をされるよう努められており、何でも言いやすい関係づくりが行われている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、職員の意見を聞ける体制は持っている。また、1回/月の職員会の時に意見・提案を聴く機会を設けている	管理者はミーティングや職員会議には参加して、職員の意見を聞く機会を設けている。一人ひとりの職員は陶芸・生け花・レクなどに、やりがいを感じ熱心に取り組まれている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、勤めやすい環境を整え維持できるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修に置いて各職員のスキルアップに努めているが外部研修への参加は行われていない。資格取得において一部費用の助成はある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会は少ない。相互訪問もほぼできていない。同敷地内の他の事業所との交流は密である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの本人の情報に基き、利用者が安心して穏やかに過ごせるように個別に係わる時間を多くとり信頼関係を築くために努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族アセスメントする事で意見や要望を聴き信頼される関係作りができるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談の段階で本人・家族が望まれる事を優先して支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々を1人の人生の先輩として尊重し思いやりを持って係わるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に家族との係わりを大切に、積極的に係わりお互いの提案や意見を交換する事で協力して利用者を支援できるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者との間を取り持つなどの支援は実践しているが関係継続に関しては積極的に行えていない	面会者は多く、利用者と一緒に過ごすよう配慮がなされている。また遠方にいる家族には請求書発送時に様子等を写真や手紙にして、近況の報告がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、居室に籠らないようホールで過ごす時間を大切に、常に利用者同士が係わる環境が作れるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談や支援に努めている。係わる機会も増えてきている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向を伺い尊重するように努めている。意思疎通の困難な利用者においては表情や様子を伺いながら支援している	入所前に本人や家族と面接して、生活の状態や趣味、意向が汲み取られている。常に本人の意向に留意し、その都度自己選択を支持することで本人本位の暮らしが支援されている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの内容や家族との会話の中でこれまでの本人の暮らしや環境について把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況については毎日のバイタル測定を行うことで把握し、自分で出来る事は自立して行えるように支援している。突発的な出来事に関してもその都度情報を共有し対応できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントで現状の把握を行うと共に本人・家族の意向を優先し、現状に即した介護計画が作成できるよう努めている	本人の意向や心身の状態を元に職員等と話し合い計画を作るが、本人や家族とも話し合い、同意を得て実施されている。職員とカンファレンスして意見やアイデアが活かされるよう努められている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録でその日の状況を記録し、また、ケアプランの実践状況も日々確認している。3カ月ごとにモニタリングする事で変化があった場合は再アセスメントにつなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設でのサービスであるが個々に合ったサービスが提供できるようにしている。インフォーマルなサービスの利用は慰問や移動理容は実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園とは交流が継続的に行っている。買い物などで近隣の市場への買い物に行き、近隣の人たちとのふれあう時間も増えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している	入所時に本人や家族等と相談してかかりつけ医が決められている。協力医の往診があり、他の医療機関を受診する際は家族の付き添い協力のもと、受診結果など報告、情報共有がなされている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職との共同は確立できている。気付いたことや起った事柄に関して常に報告・連絡・相談できるよう体制は出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には状況・情報を医療機関に伝えている。また、入院中や退院時も医療機関と連携し情報交換を行うことで適切に対応できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合についての説明は実施している。また、入居時にも、重度化した場合、将来どうしていくか適宜、家族と話し合う機会を持っている。主治医も含め方針を共有している	入所時より説明の機会が持たれており、心身の状態に変化がある都度家族等に説明をし、意向の確認がなされている。事業所でできることを十分に説明し、医師とも情報を共有し、方針を立てて、本人や家族を支援できるよう努められている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の知識は研修等で学んでいるが実際に発生した場合に確実に対応できるか不安はある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内の他の事業所と合同で消防通報訓練を実施した。実際の火災や災害時に落ち着いて対応できるかの不安はある	避難訓練は他の事業所と合同で実施されており、事業所の立地に合わせた避難計画等も検討されている。防火対策では新たに研修参加して防火管理者3名体制で対応されている	さらに、地域を巻き込んだ訓練や講演会などを通じて協力者が増やすなど、相互理解の深まりにより災害に強い事業所づくりに繋がることを期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳やプライバシーを損ねないよう言葉かけに注意し対応している。職員もお互いに注意し合いながら支援している	個人の呼び方については、自然に受容されたようで、不具合はなく、家族と職員との関係性が良好である。本人もそれぞれの呼びかけに反応しており、職員もお互いに気を配りながら注意し合っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に係る時間を大切にして信頼関係を築き遠慮せず思いを伝えていただけるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の日課はあるが本人の意向を優先しその方のペースで時間を過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に協力いただき本人の好みの衣類を準備して頂いたり、更衣時には可能な限り自分で選んで着ていただけるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっている為個人の好みは選択できない。個別に好物を購入する事もある。また、2回/月のクッキングを職員と一緒に楽しみになっている	月2回のクッキングと月1回の外食以外はご飯とおかずが届き、利用者と一緒に盛り付けや片付けがなされている。利用者の中には調理の好きな方もおり、楽しい雰囲気である。食事もおいしいと好評で、残量も少なくなっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取チェック表を利用し少ない利用者に限らず摂取を促すように対応している。また、水分が摂りにくい利用者にはゼリーなどを準備し十分な摂取を促している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清拭は個々に合った方法で毎食後実施している。また、毎週、歯科往診にて歯科衛生士による口腔清拭を行っている。異常がある場合は医師にて治療している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握する事で失敗が減るように支援している。おむつの使用は最終手段と考え、出来る限りトイレでの排泄が継続できるように支援している	日中はトイレでの排泄を目指して排泄介助が行われており、排泄の失敗が軽減され、おむつの使用が少なくなっている。夜間は休養を優先し、センサーの反応でトイレ誘導など工夫がなされている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の利用、十分な水分補給、また、ホットパックやヨーグルトの摂取など個々に応じた便秘予防を実施している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっている為希望には添えていない。拒否の多い利用者は曜日を決めず毎日の声掛けや職員の交代、時間を変更し、無理強いせず入浴できるように努める。また、ゆず風呂など季節を感じれる支援も行う	曜日により特浴と一般浴が分けられており、週2回の入浴機会が持たれている。また、入浴できないときは清拭などされている。お湯の入替や保湿性の高い入浴剤の使用など一人ひとりに配慮した入浴支援が行われている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や居室の環境整備を行い本人が落ち着いて過ごせるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合はその都度看護師より申し送りがある。症状の変化があった場合もその都度看護師に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花、陶芸教室、習字教室など趣味を活かし本人が楽しめるように努めている。また日々のレクリエーションを行い楽しみの時間になっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設イベントでの外出、買い物、また、家族の協力似て外出支援できるように努めている。1回/月の外食・外出の機会を設けている	一人一日1回は外へ出て散歩や買い物の支援がなされており、利用者も明るい表情で楽しんでいる。また、月に1回は外食をしたり、家族参加の日帰り旅行も実施されている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が無い事の不安感は理解している。持っていないと不安な利用者には、家族と相談の上、少額のお金を所持していただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった場合は家族へ連絡できるように対応している。また、毎年の年賀状作成も実施している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレとわかるように表示して困惑しないよう努めている。また、七夕には笹に短冊を飾ったり、クリスマスツリーを飾ったり季節の飾り付けを行っている。次亜塩素酸噴霧器を設置しウイルス感染予防や消臭し快適に過ごせるよう努めている	室内は明るく、清潔に保たれており、次亜塩素酸使用の噴霧器で消臭やウイルス感染予防もなされている。また、木製の床もきれいに磨かれている。季節に合った装飾品も飾られ、昼食後のリビングでは、利用者が思い思いに寛ぐ様子が見られる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの一角にソファを設置したり、廊下の離れた場所にソファを設置し個々に過ごせるスペースを設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より家族と相談し出来る限り今まで使用していた馴染の物を持ってきていただくようにしている	利用者が大切にしているものは持ち込み可能で、位牌やおりん、お気に入りのソファやいす、筆筒などそれぞれの部屋が演出されている。居室は明るく、外の景色も楽しめる	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り鍵をかけない支援を実施し、利用者が好きな場所へ自由に移動できるように支援している		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、始業前に申し送り時に唱和しており実践できている事も増えてきている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の交流は実践できていない。夏祭りや敬老会、ひな祭り、秋祭り等のイベントでの交流はある
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	十分に活かす事は出来ていない
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族から意見のあった事については職員会にて報告し、検討して日々のサービス向上に活かせるように努力している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、施設長・管理者が、市町村との連携を図っている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会を設置し拘束しないケアが実践できるように検討している。現在は拘束者はいない
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、研修会等で理解を深め、職員個々が見張り役となって注意し合える環境ができている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している利用者もいるため、制度について知っているが詳しくは学べていない
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長や管理者が契約の際に十分な説明を行い、同意を貰い署名捺印していただいている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、運営推進会議などで意見をいただく機会はある、問題は改善し運営に反映できるよう努めている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員は意見があればその都度、管理者・主任に伝えている。可能な限り意見は反映してもらっている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境条件の整備に努めていると思う
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に行く機会は少ない。スキル向上できるように施設内研修を行っている。資格取得のための一部助成制度はある
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との交流は無いが同一敷地内の事業所との交流は密である

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの本人の情報に基き、係わる時間を多く持ち利用者が穏やかに過ごせるよう支援している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に聞き取りを実施し、家族の希望・要望を聞き、また、来設時には積極的に係わり信頼関係の構築に努めている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が特に困っている事、不安に思っている事を優先し、安心できるサービスが提供できるよう支援している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方通行になりがちであるが、1人の尊敬できる先輩として接する事ができるように支援している
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での状況・状態を共有し良い事も悪い事も共に協力して考え信頼関係を築きながら共に支えて行けるように努めている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て下さる方はいるがこちらから積極的な関係の継続支援は出来ていない
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで一緒に過ごせる時間を多く持っただき、利用者同士がお互いを気遣いながら生活できる環境を作っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談など関係継続ができるように努めており、係わる機会も増えてきている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に意向に添えるよう努めている。思いを伝えられない利用者においては、生活歴や家族の聞き取りなどを参考にし把握できるように努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで得ている情報以外にも家族や本人との日々の会話の中から把握できるように日詰めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状況については、毎朝バイタル測定を実施し、状態確認できるよう努めている。ADLに関しては、現在できる事を大切にしながら支援している
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング結果を基に、必要に応じアセスメント実施し、担当職員や看護師の意見などを参考に介護計画を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録にて個々の状況を記入し、またケアプランの実践状況も確認し、3か月ごとのモニタリング時の評価につなげ、見直しに活かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、個々に合ったサービスが提供できるように対応している。慰問や移動理容所などインフォーマルサービスも利用している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園と定期的な交流を行っている。また、ふれあい市場に買い物に出かける事で馴染の関係が出来るように支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは常に情報を共有し適切な医療が受けられるよう支援している
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	薬の内容や利用者の精神症状など、看護師との連携は出来ている。利用者は適切な受診や看護を受けている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、状況・状態を医療機関に伝えている。また、入院中や退院時も医療機関と連携し情報交換を行うことで適切に対応できるよう努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合についての説明は行っている。悪化した場合はその都度、家族と相談している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を実施したり、マニュアルを作りミーティングなどで話し合いを実施している
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署を含めた通報避難訓練を実施したが実際に発生した時に落ち着いて対応できるか不安な気持ちがある

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助時のプライバシーの確保は出来ている。日々の声掛けなども一人一人の人格を尊重している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気兼ねなく思いを伝えていただけるよう日頃から係わる時間を大切にして信頼関係ができるよう努めている。また、自己決定できるよう声掛けを工夫したり選択できる場面を作っている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝期間は本人の意向に添えるように努めている。何れの場面も無理強いをせず納得の上で支援できるように努めている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に好みの衣類を準備して頂いたり自分で着たい服が選べるように支援している。お化粧がしたい利用者には出来るように準備は出来ている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立が決まっている為選択はできない。好みの物を購入して楽しむ支援は行っている。2回/月は職員と一緒にクッキングを楽しんでいる
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事状況を確認し、摂取量が減少している利用者は個別にチェック表を利用し状態を検討し支援している
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭を実施している。1回/週歯科医院の歯科衛生士にて口腔ケアを行っている。気になる事があればかかりつけの歯科医に相談し状況に応じて往診してもらう

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握することで失敗が減るよう支援している。おむつの使用は最終手段と考えられる限りトイレでの排泄が継続できるよう支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して水分補給やヨーグルトの摂取、腹部ホットパックを実施し便秘の予防や改善に努めている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強い入浴拒否がある場合は、無理強いせず本人の状況に合わせて、入浴日以外でも入浴できるように支援している。ゆず風呂やしょうぶ湯など季節を感じてもらえる支援を行っている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く落ち着いて眠れるように照明や室内環境を整えるように努めている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時などは、申し送り時に効能などの説明を受けている。症状に変化がある時は看護師に報告している
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の有する力に応じて、家事(米研ぎ・配膳・洗濯)等を行うことで役割意識を持ってもらい生活にメリハリができるよう支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントや行事、買い物、受診以外に1回/月の外出・外食が楽しめるよう支援している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金の無い事への不安を理解している。現状はお金の所持は出来ないが訴えの強い利用者には家族の理解のもと少額を所持する体制は出来ている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し理解のもとで電話はいつでもできる支援は行っている。毎年年賀状を家族や知人に贈れる支援は行っている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雛飾りや七夕、クリスマスツリーをホールに飾ったり、季節感が分かるような飾り付けを行うように工夫している
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの一角にソファを設置したり、廊下の離れた場所にソファを設置して静かに過ごせる環境も作っている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に馴染のある椅子や机を持ち込んでいる利用者もいる。入居時には出来るだけ治あくで使用していた家具や道具を持ってきてもらうよう家族にお願いしている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせて安全で自立した生活が送れるように環境が作れるように支援している